

テストツール

INtime
A-Link. RSL

目次

第1章 テストツール概要

1-1 テストツール基本構成	1-1
----------------	-----

第2章 デジタル入出力ユニット

2-1 表示画面と各部概要	2-1
2-2 操作手順	2-1

第3章 アナログ入出力ユニット

3-1 表示画面と各部概要	3-1
3-2 操作手順	3-1

第4章 位置決めユニット

4-1 表示画面と各部概要	4-1
4-2 操作手順	4-2

第5章 エンコーダ・カウンタユニット

5-1 表示画面と各部概要	5-1
5-2 操作手順	5-1

第6章 ちび丸君 アナログ入出力ユニット

6-1 表示画面と各部概要	6-1
---------------	-----

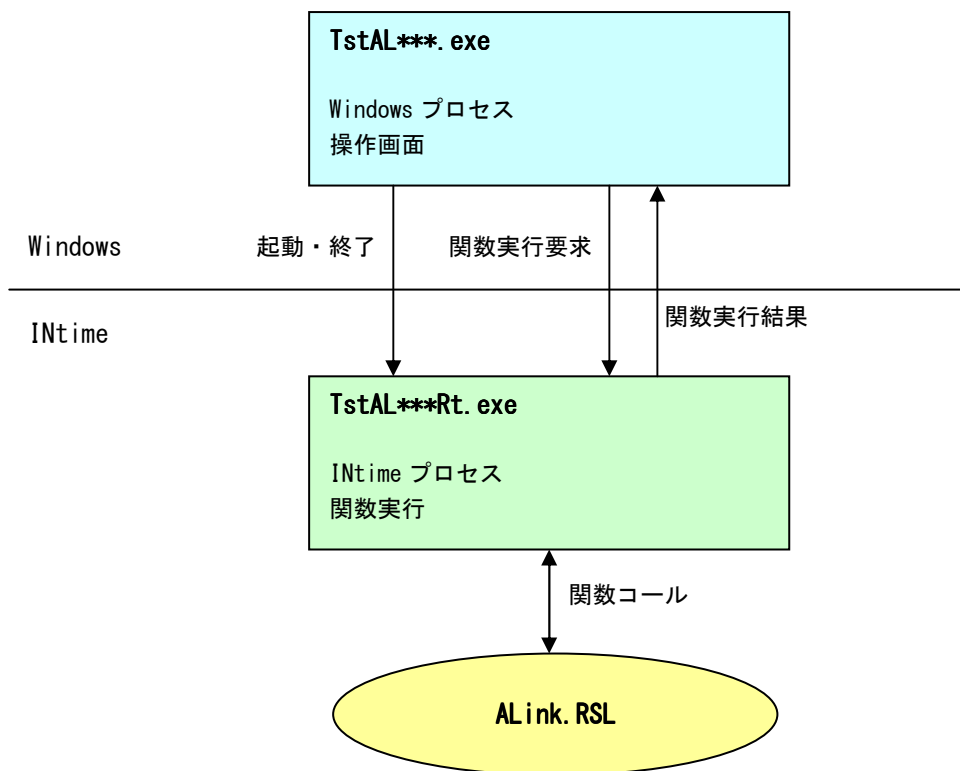
6-2 操作手順	6-2
----------------	-----

第7章 ALD シリーズ アナログ入出力ユニット

7-1 表示画面と各部概要	7-1
7-2 操作手順	7-2

第 1 章 テストツール概要

1-1 テストツール基本構成



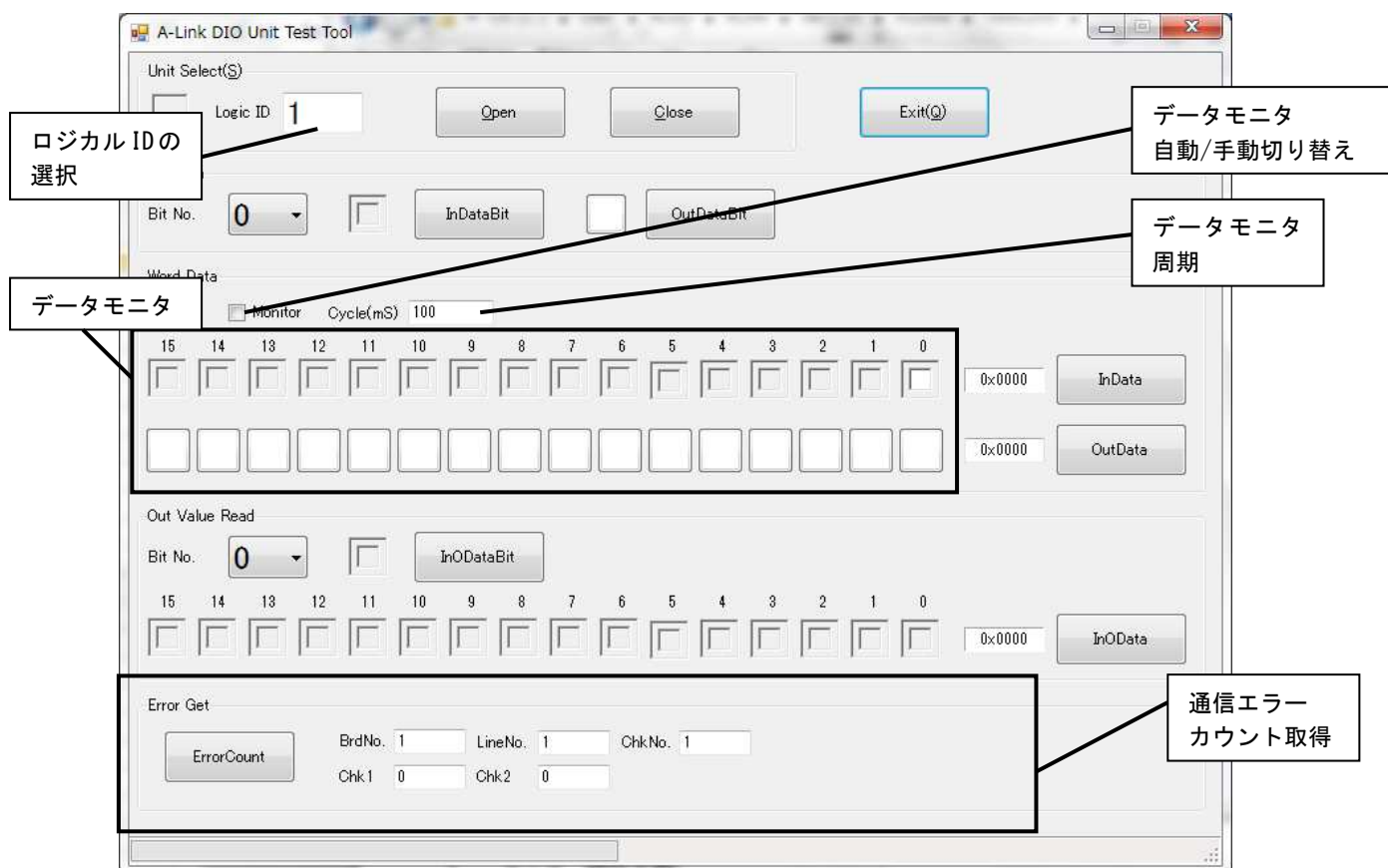
テストツールは、Windows プロセス (TstAL***. exe) と INtime プロセス (TstAL***Rt. exe) で構成されています。

Windows プロセスは、操作画面を表示します。操作によって発生した A-Link 制御処理は、関数実行要求として INtime プロセスへ送信されます。INtime プロセスは、Windows プロセスから関数実行要求を受け、ALink. RSL の関数を実行します。実行した関数の結果を Windows プロセスに送信します。Windows プロセスと INtime プロセスとの間の通信は、MailBox、SharedMemory を使用して行っています。

テストツールの起動は、Windows プロセスを実行します。INtime プロセスは、Windows プロセスから自動で起動されます。

第2章 デジタル入出力ユニット

2-1 表示画面と各部概要



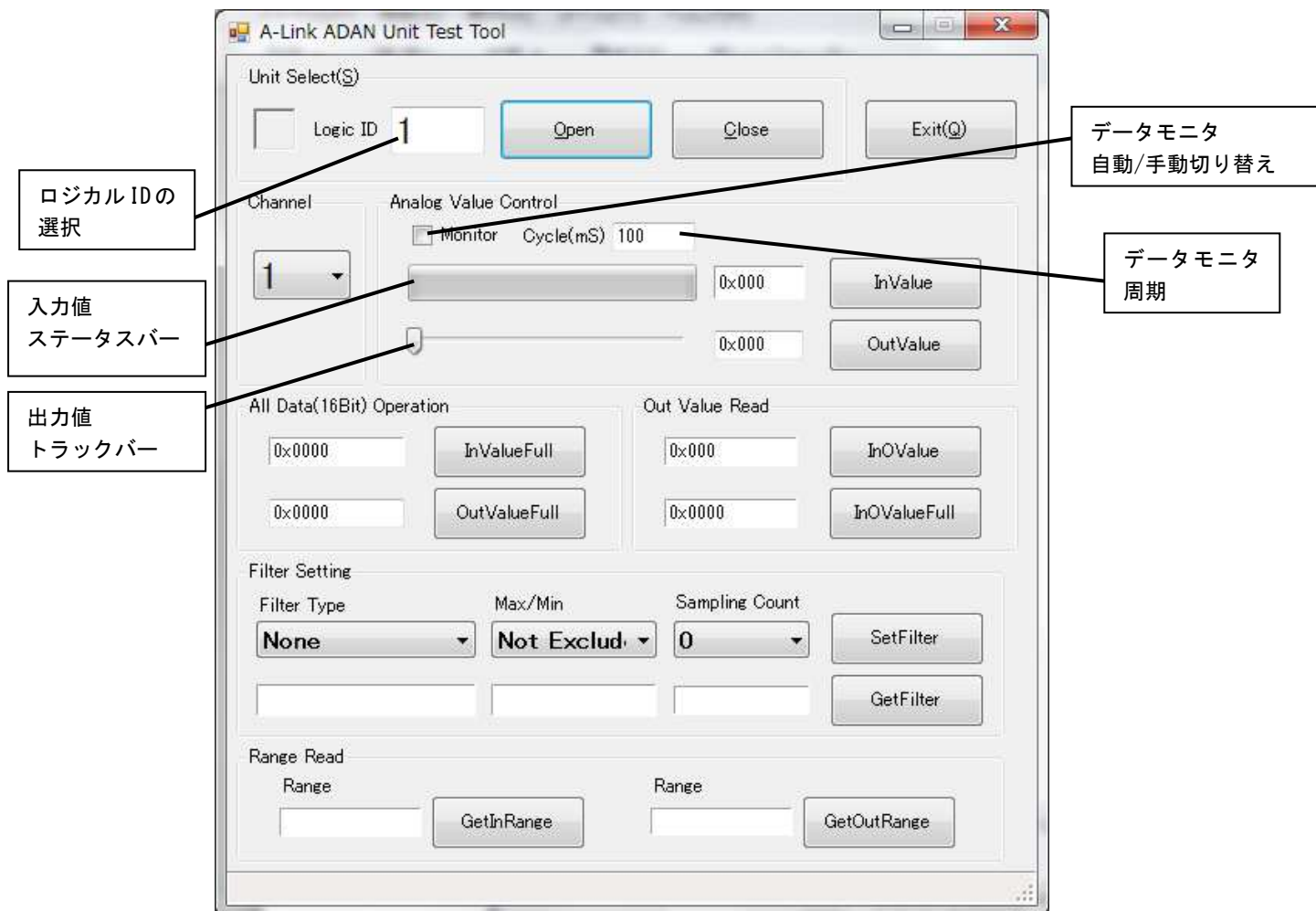
2-2 操作手順

- 1) デジタル入出力ユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.ini) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、デジタル入出力ユニットテストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
- 4) データモニタのチェックボックスは出力データの各ビットに対応しています。
データモニタのチェックボックスにチェックを入れることで出力データを作成します。[OutData] ボタンを押すと関数が実行されます。
- 5) チェックボックスの上のパネルは入力データの各ビットに対応しています。
[InData] ボタンを押すと関数が実行されます。入力データのビットが1のとき、対応するパネルが青色に変化します。

- 6) [Monitor] のチェックボックスをチェックすると、InData、OutData がデータモニタ周期で指定された周期ごとに実行されます。
- 7) ボード番号、ライン番号、エラー1,2 を選択し、[ErrorCount] ボタンを押すことで、通信エラーカウントを取得します。通信エラーカウントは、[ErrorCount] ボタンを押す毎にリセットされます。
- 8) ユニットをクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

第3章 アナログ入出力ユニット

3-1 表示画面と各部概要



3-2 操作手順

- 1) アナログ入出力ユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.ini) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、「C:\Program Files\ALGOSYSTEM\ALink\TstALADA.exe」を実行し、アナログ入出力ユニットテストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
- 4) 入力値ステータスバーは AD 入力値を表示します。
[InValue] ボタンを押すと関数が実行され、入力にしたがってステータスバーが移動します。

-
- 5) 出力値トラックバーはDA出力値を表示します。
トラックバーを移動させ出力データを作成します。[OutValue]ボタンを押すことにより関数が実行されます。
 - 6) [Monitor] のチェックボックスをチェックすると、InData、OutData がデータモニタ周期で指定された周期ごとに実行されます。
 - 7) ユニットクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

第4章 位置決めユニット

4-1 表示画面と各部概要

The screenshot shows the 'A-Link AXSA Unit Command Test Tool' window. It is divided into several sections:

- Unit Specification (ユニットの指定(S)):** Includes a 'Logical ID' (ロジカル ID の指定) field with '論理ID 1' and buttons for 'Open', 'Close', and '終了(Q)'. A 'Axis Number' (軸番号指定(J)) dropdown is set to '1'.
- Axis Information (軸情報):** A 'Status' (ステータス) table, 'Current Position' (現在位置) and 'Current Speed' (現在速度) fields, and 'A-Link Communication Error' (A-Link通信エラー) and 'Serial Communication Error' (シリアル通信エラー) fields. Below this are 'Sink Output' (汎用出力) and 'Sink Input' (汎用入力) status indicators.
- Command (コマンド(Z)):** A table with columns for '設定' (Setting), '駆動' (Drive), '原点サーチ' (Home Search), '出力' (Output), '各種' (General), '拡張' (Expansion), 'ルーチンワーク' (Routine Work), '設定読出' (Setting Read), '特殊' (Special), and '速度変更' (Speed Change). The 'Signal Theory Setting' (信号理論設定) row is selected.
- Monitoring (モニタ(M)):** Includes a 'Monitor' (モニタ) checkbox and a 'Period (ms)' (周期(mS)) field set to 50.
- Buttons:** 'コマンド実行(B)' (Execute Command) and 'コマンド実行ボタン' (Execute Command Button).

Callouts in the image identify the following elements:

- ロジカル ID の指定 (Logical ID specification)
- 軸番号選択 (Axis number selection)
- コマンド選択 (Command selection)
- 状態モニタ (Status monitor)
- パラメータ設定 (Parameter setting)
- コマンド実行ボタン (Execute command button)

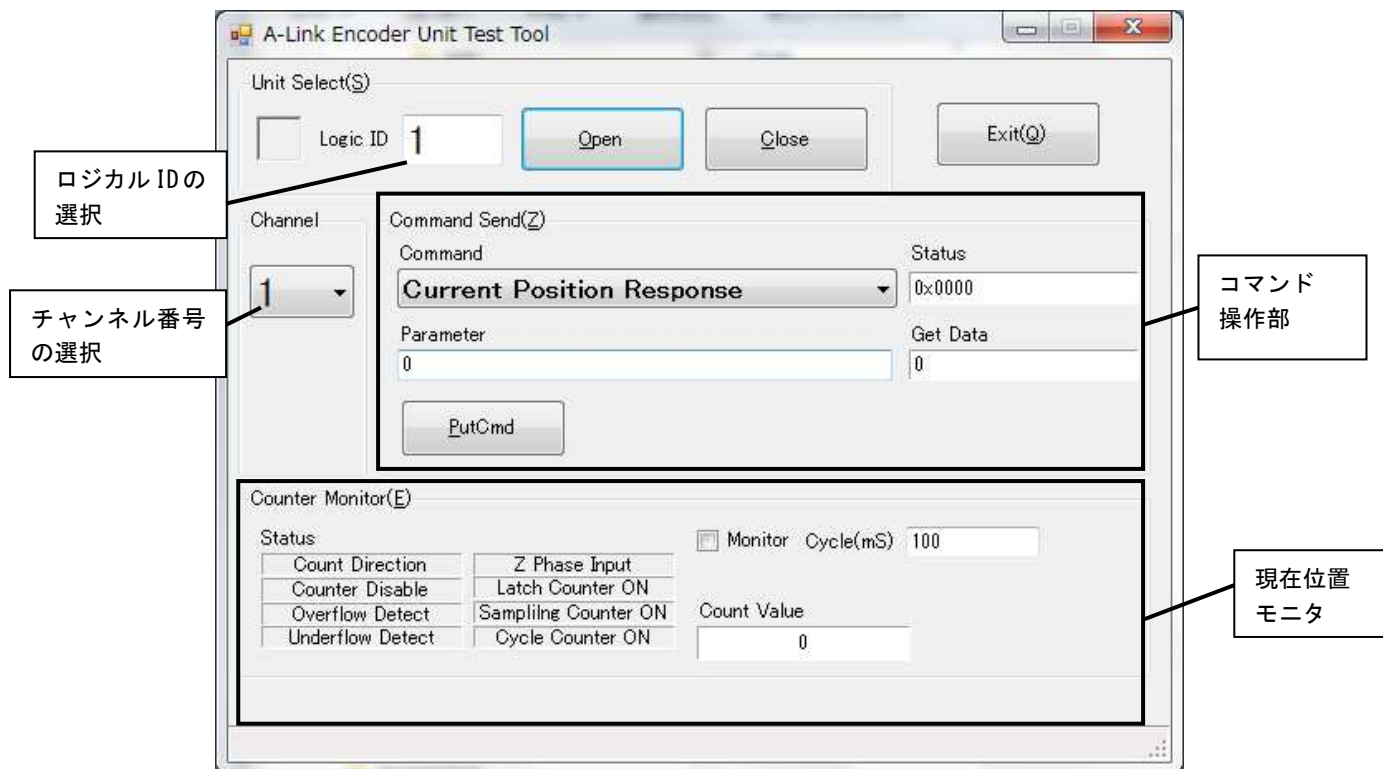
設定	駆動	原点サーチ	出力	各種	拡張	ルーチンワーク	設定読出	特殊	速度変更
<input checked="" type="checkbox"/> 信号理論設定				0			0x0000		
<input type="checkbox"/> モード設定				0			0x0000		
<input type="checkbox"/> 自起動スピード設定				1			1000		
<input type="checkbox"/> 高速スピード設定				1			10000		
<input type="checkbox"/> 上限スピード設定				1			100000		
<input type="checkbox"/> 加減速設定				1			200		
<input type="checkbox"/> 信号モード設定				0			0x0000		
<input type="checkbox"/> 原点低速スピード設定				1			200		
<input type="checkbox"/> 原点高速スピード設定				1			600		
<input type="checkbox"/> 原点加減速設定				1			5		
<input type="checkbox"/> 各種設定				28			0		

4-2 操作手順

- 1) 位置決めユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink. INI) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink. ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、「C:\Program Files\ALGOSYSTEM\ALink\TstALAXSA.exe」を実行し、位置決めユニットテストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
- 4) タブシートを選び、目的のコマンドのパラメータを設定します。選択したタブが設定タブの場合、コマンド選択にチェックを入れ、[コマンド実行] ボタンを押します。それ以外のタブでは、コマンドに対応するボタンを押します。
- 5) 目的の軸に合うように初期化を行って下さい。
- 6) 軸を駆動させます。
- 7) [モニタ] チェックボックスをチェックすることで、周期的に内部でコマンドを実行し、現在の状態を状態モニタに表示させることができます。
- 8) ユニットのクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

第5章 エンコーダ・カウンタユニット

5-1 表示画面と各部概要



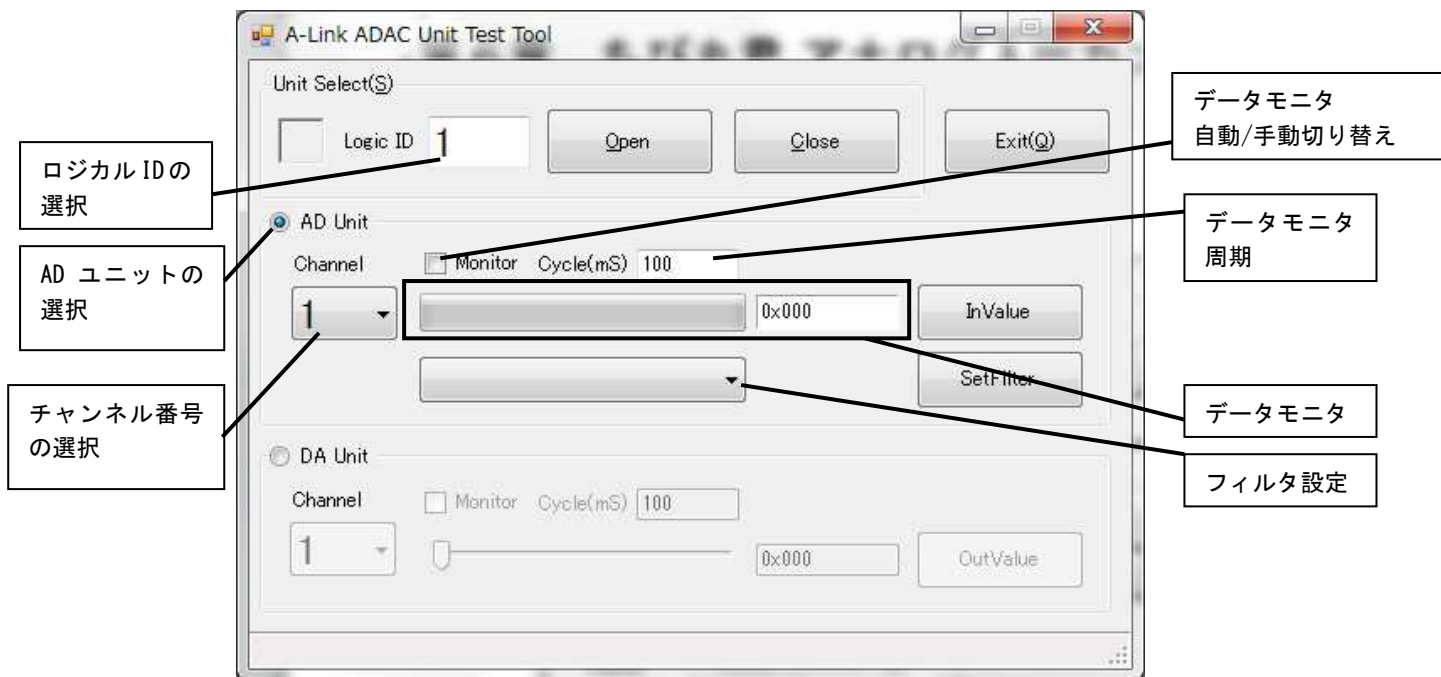
5-2 操作手順

- 1) エンコーダ・カウンタユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.INI) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、「C:\Program Files\ALGOSYSTEM\ALink\TstALENC.exe」を実行し、エンコーダ・カウンタユニットテストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
- 4) コマンド操作部でコマンド選択とパラメータ設定を行い、[PutCmd] ボタンを押してユニットにコマンドを送信します。
コマンド完了とともに取得されたステータス、データが表示されます。
- 5) [Monitor] チェックボックスをチェックすると、周期的に現在位置を取得し、結果を現在位置モニタに表示します。
- 6) ユニートをクローズします。(終了させる前には必ず行ってください。)

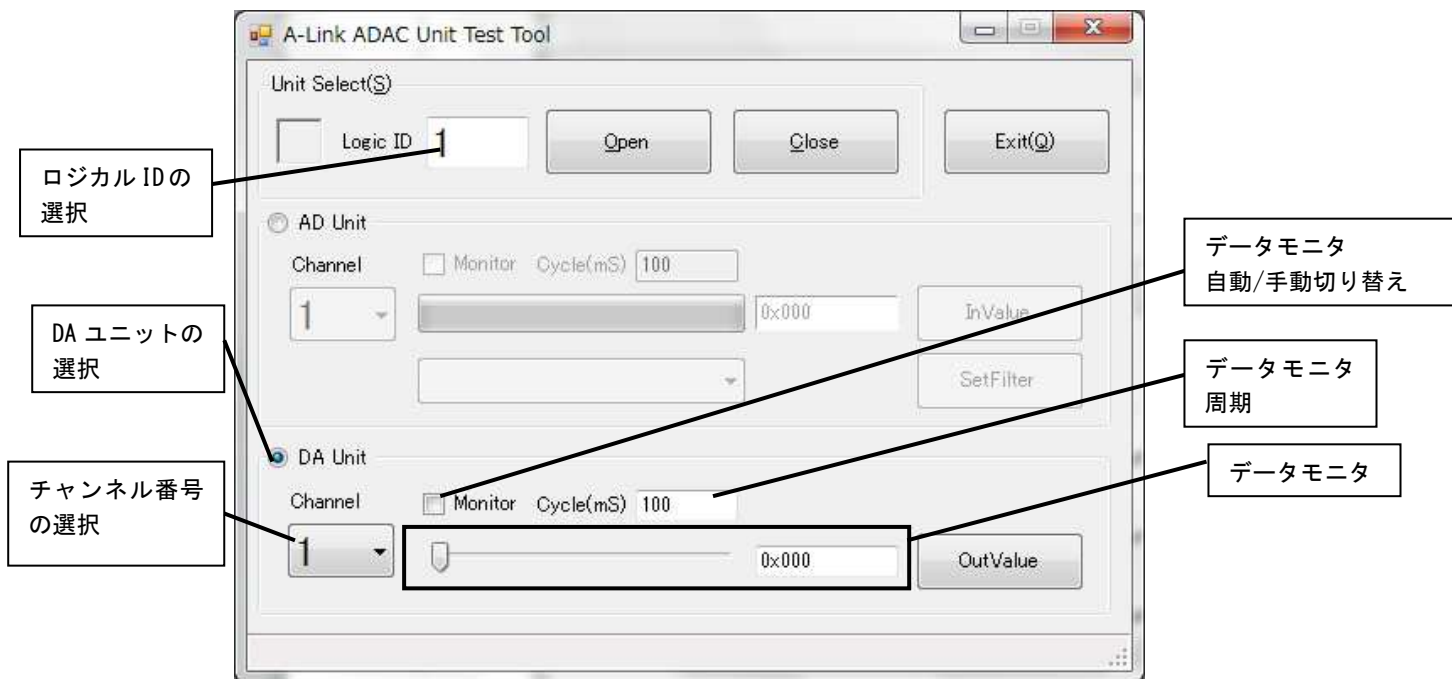
第6章 ちび丸君 アナログ入出力ユニット

6-1 表示画面と各部概要

6-1-1 アナログ入力ユニット



6-1-2 アナログ出力ユニット



6-2 操作手順

6-2-1 アナログ入力ユニット

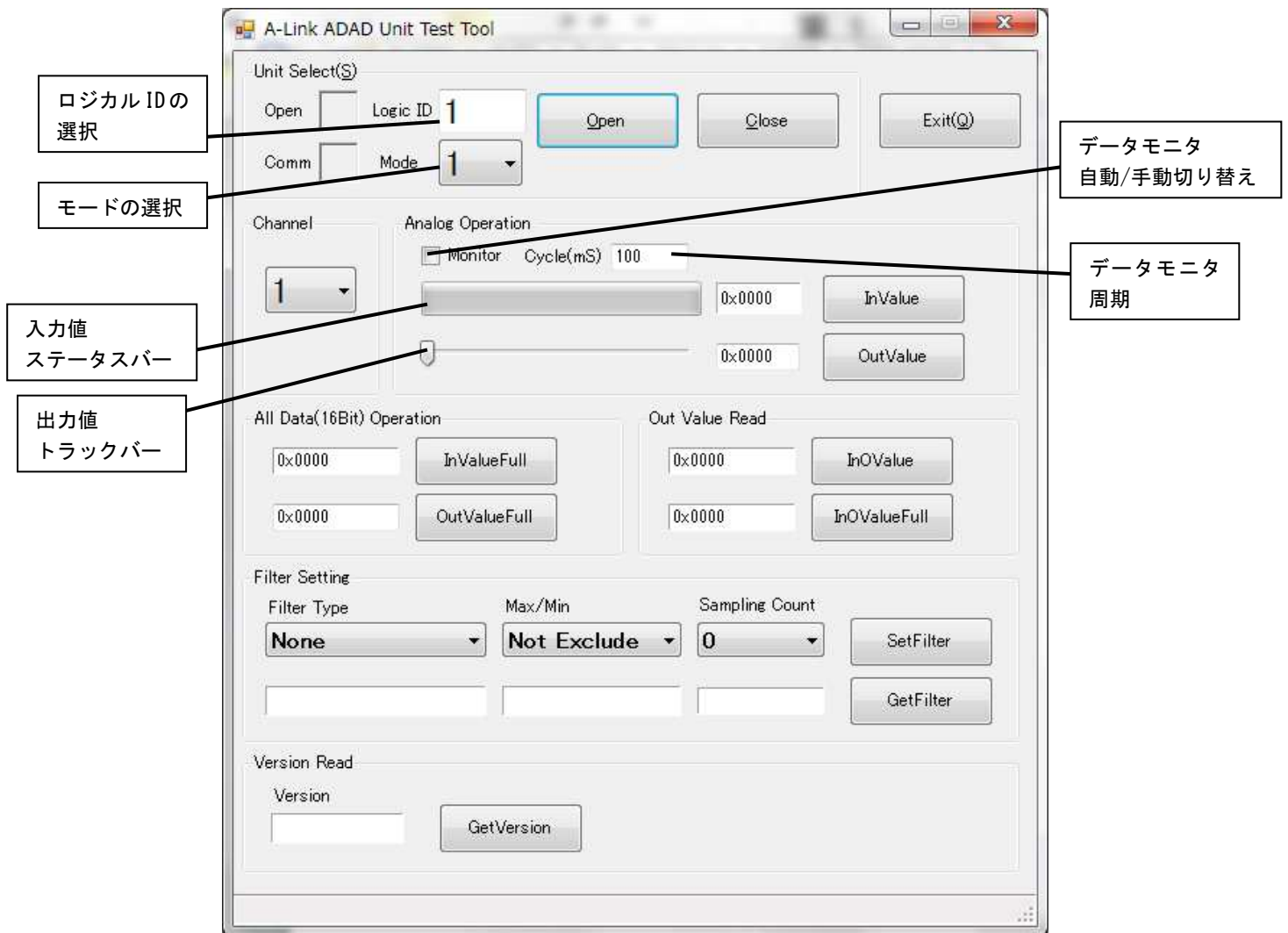
- 1) ちび丸君アナログ入力 (AD) ユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.ini) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、「C:\Program Files\ALGOSYSTEM\ALink\TstALADAC.exe」を実行し、ちび丸君テストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
AD ユニットを選択し、AD ユニット操作部分を有効にします。
- 4) [データモニタ] のステータスバーに AD 入力値が表示されます。
[InValue] ボタンを押すと関数が実行され、AD 入力値にしたがってステータスバーが移動します。
- 5) [フィルタ設定] でフィルタの種類を選択します。[SetFilter] ボタンを押すとフィルタ設定関数が実行されます。
- 6) [Monitor] チェックボックスをチェックすると、InValue 処理がデータモニタ周期で指定された周期ごとに行われます。
- 7) ユニットのクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

6-2-2 アナログ出力ユニット

- 1) ちび丸君アナログ出力 (DA) ユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.ini) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、ちび丸君テストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID を選択し、ユニットのオープンを行います。
DA ユニットを選択し、DA ユニット操作部分を有効にします。
- 4) [データモニタ] のスライドバーを用いて DA 出力値を設定します。
[OutValue] ボタンを押すと関数が実行され、出力処理を行います。
- 5) [Monitor] チェックボックスをチェックすると、OutValue 処理がデータモニタ周期で指定された周期ごとに行われます。
- 6) ユニットのクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

第7章 ALD シリーズ アナログ入出力ユニット

7-1 表示画面と各部概要



7-2 操作手順

- 1) ALD シリーズ アナログ入出力ユニットを使用するために初期設定ファイル (ALink.ini) を作成します。
(初期設定ファイル作成については、ALink.ini 設定マニュアルを参照して下さい)
- 2) INtime カーネルが起動している状態で、「C:\Program Files\ALGOSYSTEM\ALink\TstALADAD.exe」を実行し、ALD シリーズ アナログ入出力テストツールを起動します。
- 3) ロジカル ID、モードを選択し、ユニットのオープンを行います。
- 4) 入力値ステータスバーは AD 入力値を表示します。
[InValue] ボタンを押すと関数が実行され、入力にしたがってステータスバーが移動します。
- 5) 出力値トラックバーは DA 出力値を表示します。
トラックバーを移動させ出力データを作成します。[OutValue] ボタンを押すことにより関数が実行されます。
- 6) [Monitor] のチェックボックスをチェックすると、InData、OutData がデータモニタ周期で指定された周期ごとに実行されます。
- 7) ユニットクローズします。(終了させる前には必ず行って下さい)

このマニュアルについて

- (1) 本書の内容の一部または全部を当社からの事前の承諾を得ることなく、無断で複写、複製、掲載することは固くお断りします。
- (2) 本書の内容に関しては、製品改良のためお断りなく、仕様などを変更することがありますのでご了承下さい。
- (3) 本書の内容に関しては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきのことがございましたらお手数ですが巻末記載の弊社までご連絡下さい。その際、巻末記載の書籍番号も併せてお知らせ下さい。

77IT10008D
77IT10008A

2014年 3月 第4版
2011年 8月 初版

 株式会社アルゴシステム

本社
〒587-0021 大阪府堺市美原区小平尾656番地

TEL (072) 362-5067
FAX (072) 362-4856

ホームページ <http://www.algosystem.co.jp/>